

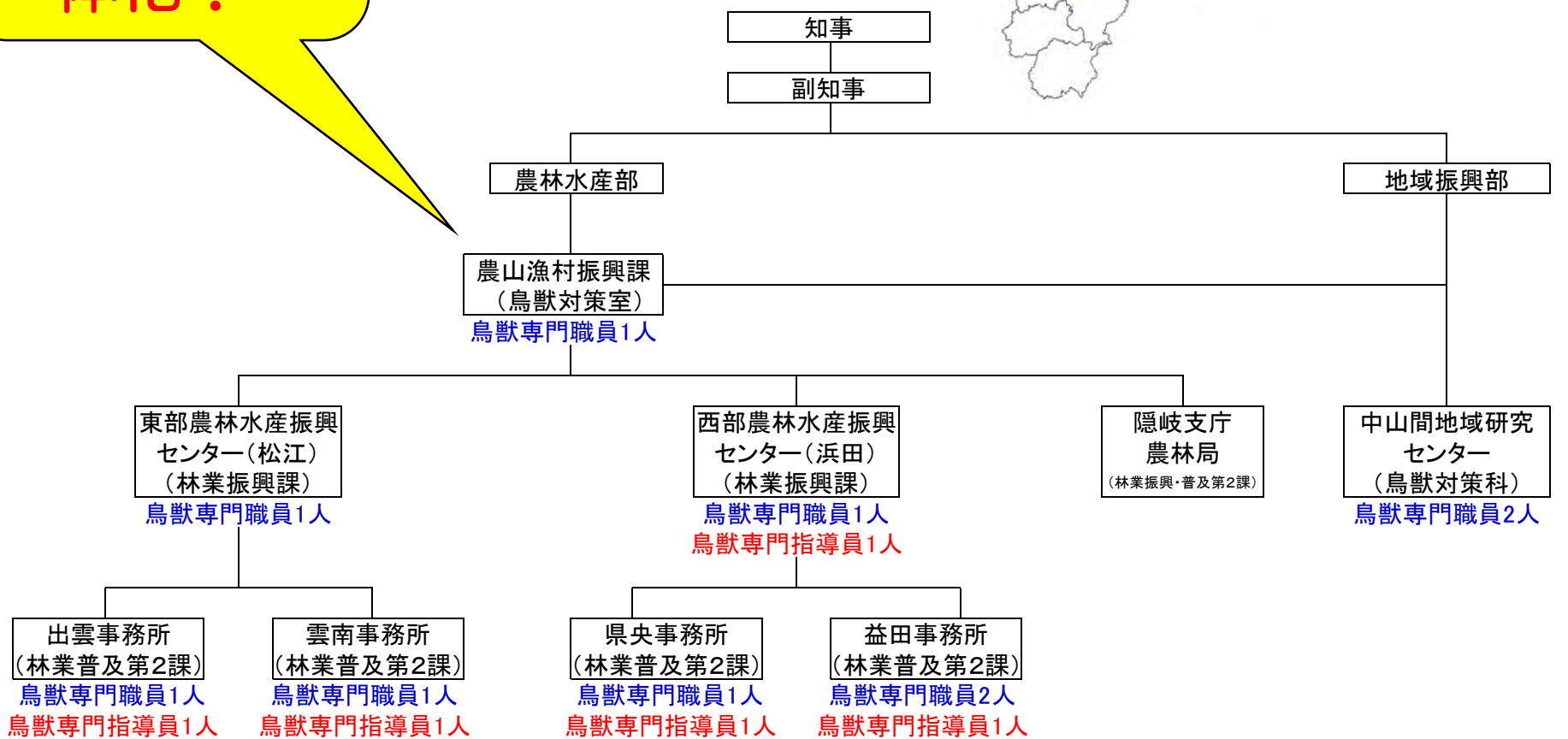
島根県における鳥獣専門指導員の 配置と組織としての体制づくり



澤田 誠吾

(島根県中山間地域研究センター)

保護管理と
被害対策を
一体化！



島根県の鳥獣行政の体制

隠岐支庁

2013年に
配置

2011年
に配置

2010年に
配置

2004年に
配置

東部農林振
興センター

鳥取県

出雲事務所

雲南事務所

県央事務所

西部農林振
興センター

広島県

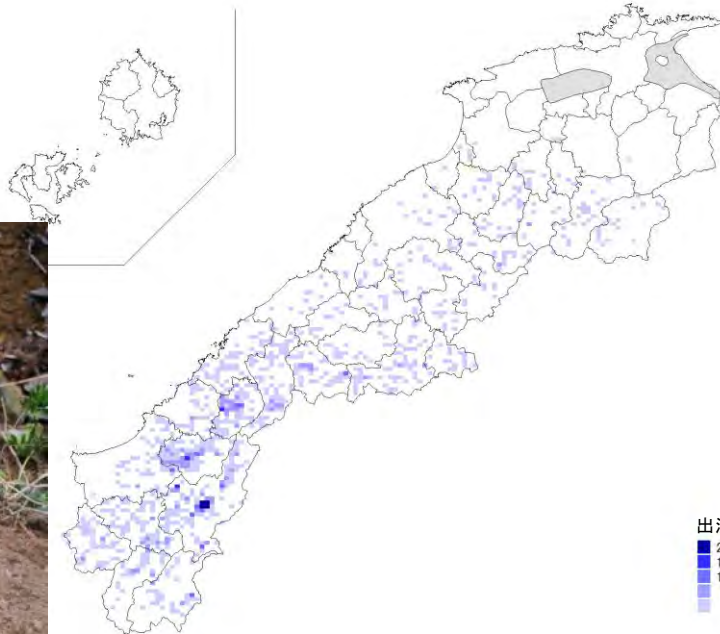
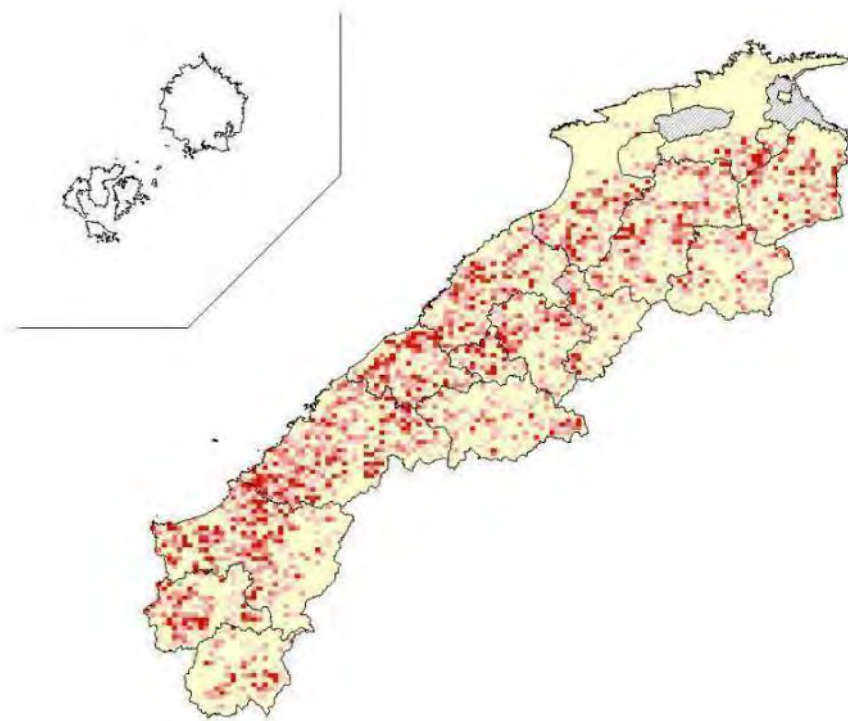
益田事務所

山口県

2026年6月現在、合計5名
(男性1、女性4)を配置

鳥獣専門指導員の配置状況

イノシシの捕獲位置



出件数
 ■ 20 - 30
 ■ 15 - 20
 ■ 10 - 15
 ■ 5 - 10
 ■ 1 - 5



クマの捕獲位置

鳥獣専門指導員を設置した背景①

【2004年当初の設置目的】

おもにツキノワグマの保護管理の推進のため。

① 錯誤捕獲個体の放獣作業の技術的能力

② 緊急対応時の正確な判断

③ 普及啓発活動の推進



鳥獣専門指導員を設置した背景②

行 政

- 絶滅の恐れのある地域個体群
- クマの保護管理への住民の理解の促進
- 錯誤捕獲されたクマの放獣

現 場

- 農林作物・家畜被害や人身被害の発生
- 住民等の人身事故の予防のための対処法等の知識不足
- 農作物等への被害対策についての住民への指導が不足



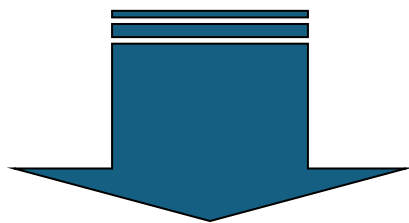
行政と現場の両方の課題を理解し、クマの被害対策等の知識・技術を持ち、経験に基づいたクマの保護管理を推進できる人材が必要

鳥獣専門指導員を設置した背景③

県職員の異動（約3年ごと）

→ 知識・経験がリセットされる

研修会の開催などによって、人材育成に努めてきが・・・



鳥獣専門指導員（非常勤嘱託職員）を採用

鳥獣専門指導員の身分と採用

①身 分 会計年度任用職員（月124時間勤務）

②任用期間 1年（通算5年を上限として更新可能）

③試 験 一般公募での採用試験（面接）

（全国各地からの応募者あり）

④受験資格

- ・ 普通免許自動車運転免許を所持
- ・ 自然環境系、生物系の大学や専門学校卒業

⑤採用後 中山間地域研究センターにおいて2か月間
研修を受けた後に担当地域の出先事務所へ
配置（R7年度から1カ月間）

研修内容

○島根県の状況、関係法令、獣種別の座学

→生態、被害形態、被害対策etc

○実習

→クマの放獣・解体、防護柵の設置etc

○個人練習

→吹き矢、電気柵の設置etc

○情報収集

→論文、文献整理

研修内容

- 研修ではコミュニケーション力を重視。
- 研修中に実際の現場に出向いて、先輩の専門員と住民とのやり取りをみて、現場の雰囲気を感じて。

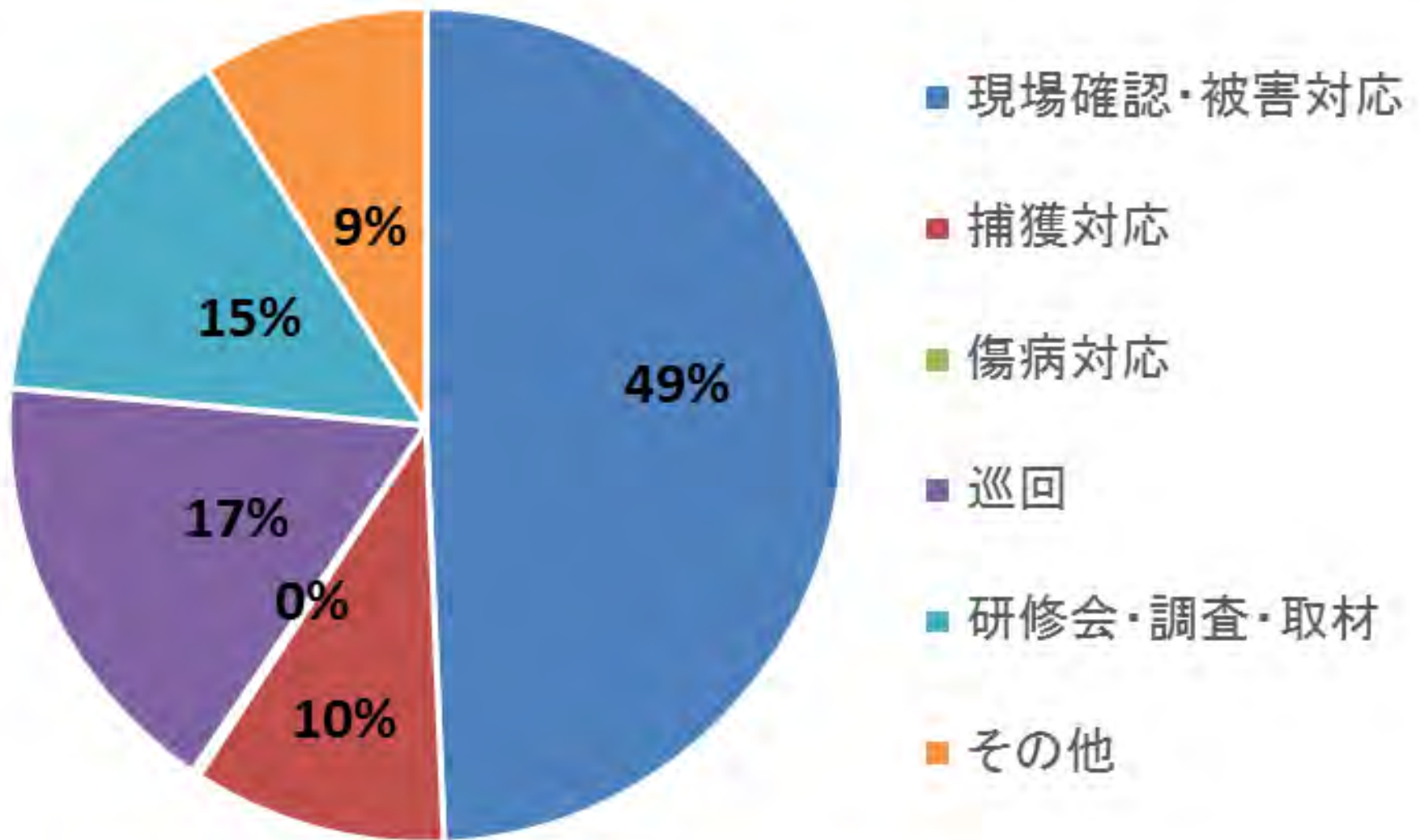


鳥獣専門指導員の活動内容

鳥獣専門指導員の主な業務内容 (ツキノワグマ)

- 放獣個体の麻酔作業、学習放獣
- 個体計測や検体摘出等のモニタリング調査
- 集落における誘引物の除去等の指導
- 巡回指導による既設の防護柵等の点検や現地指導
- 市町村職員や地域住民への保護・管理対策の普及活動
- 堅果類の豊凶調査
- 生息数調査の補助ーカメラトラップ調査

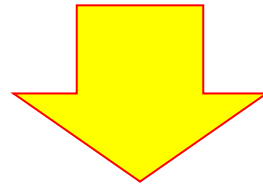




鳥獣専門指導員の活動内容

鳥獣専門指導員の活動事例

2016年にクマの大量出没が起き、連日の力キの被害対応



この地域は、これまでクマによる力キの被害はほとんど発生していなかった。。。



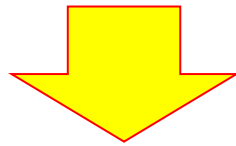


電気柵・トタン巻きの設置指導、カキもぎ。

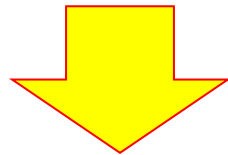
⇒住民への電気柵普及

⇒市町担当者職員のスキルアップ

現場対応で浮かび上がる課題



捕獲、被害対策をしても被害が止まらない



空き家の力キ被害は誰が対策をする・・・

高齢者の力キ対策は・・・

力キを伐採したくてもできない・・・

クマ対策検討会

【住民】

クマと人とどちらが大事なんだ！
保護しているからこんなことになる！
事故が起きたらどうする！



【猟師：A氏】

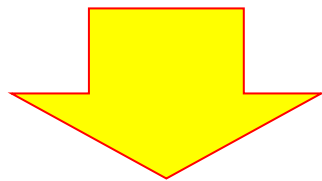
A氏：鳥獣専門指導員と一緒に対策を行っていた方。

「トタンを巻いたり、電気柵などの被害防除が一番効果的だった！」

今まで捕獲一辺倒だった猟師が対策検討会の場で、このような発言をしてくれたのは総合的な対策の大きな一歩！

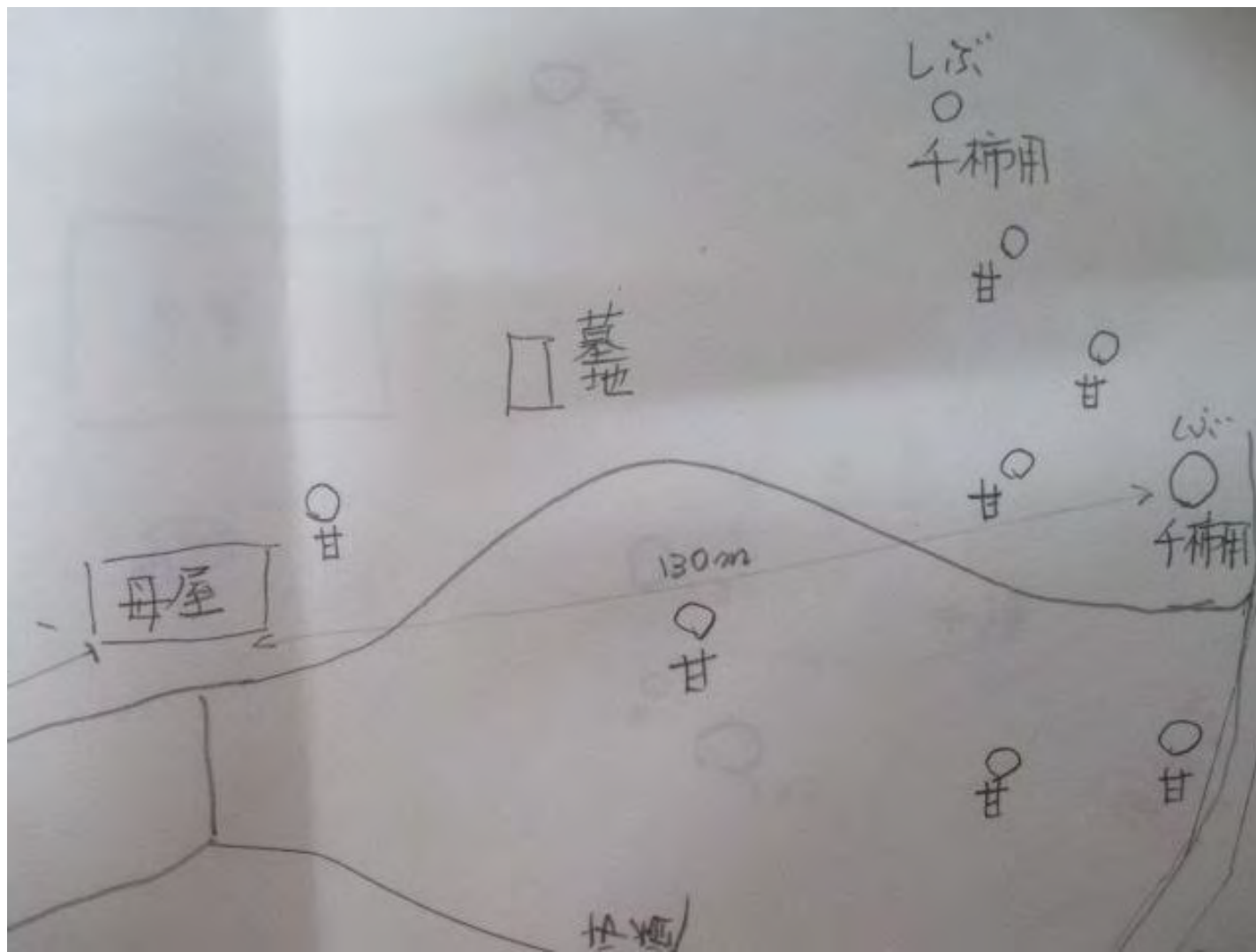
検討会后

⇒A氏が中心となり力キの本数と被害木
の本数を調査



地域に精通している猟師がやってくると地域が
動く！

• 甘力キ：214本 渋力キ：130本 合計344本
⇒伐採：7本 伐採可能な木：27本







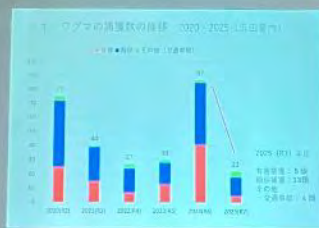
鳥獣専門指導員のフォローアップ (2004年当初は1名。その後順次配置)

- 疑問？に思ったこと、不安？に感じたことをためこまない。
 - 鳥獣職、専門員のだれかに相談
 - 鳥獣ミーティング
- 活動報告会
 - 毎年1月に1年の活動トピックを20分で報告（研修、プレゼンの練習）
- スキルアップのための研修等への参加



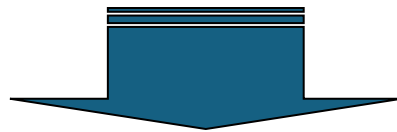
鳥獣ミーティング

活動報告会

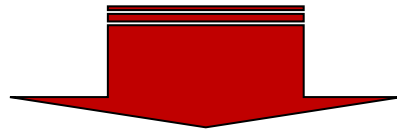


鳥獣専門指導員の役割

当初の目的は、
おもにツキノワグマの保護管理対策



ニホンジカの課題、外来生物の生息拡大
イノシシ、サルによる被害も依然として発生



鳥獣の被害対策の全般に対応





何でもしてくれる便利屋さん・・・？。

被害対策等の相談，助言，指導，啓発，調査



現場密着の鳥獣専門指導員の必要性

- 被害発生があれば現場に駆けつけるフットワーク。
- 現場対応時は市町担当者と一緒にいって情報を共有。被害対策の技術等が伝わる。
- 住民—地域—市町—県 ⇒ 相互のパイプ役

鳥獣類の被害対策に現地で専門的に対応できる人材の配置等が多様な連携の力ギになると確信している

専門的な人材を配置して終了ではない。専門員を孤立させない体制づくりもセットで考える